

紙絵本・デジタル絵本遊び場面における母子の共同注意

乳児と母親の視線やりとりの検討から

佐藤鮎美¹・齋藤有²・佐藤朝美³・石川由美子⁴・堀川悦夫⁵ #

(¹京都橘大学健康科学部・²お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科・³東海学院大学人間関係学部・
⁴聖学院大学人間福祉学部・⁵佐賀大学医学部)

目的

iPadのようなタブレット型端末の普及により絵本のデジタル化が進んでいる。従来の紙媒体の絵本は子どもの共同注意が生じやすい場であり (Sato & Uchiyama, 2012; 菅井ほか, 2010), 子どもの社会認知発達に効果が期待できる場面である。しかしながら, デジタル絵本においても同様の効果が期待できるか否かは未だ実証的に検討されていない。そこで, 本研究では紙絵本およびデジタル絵本を使用した際の乳児および母親の視線のやりとりから, 両場面における共同注意の様相を比較検討する。

方法

参加者 本研究は生後12か月の乳児およびその母親10組を対象に実施された。

手続き 大学内に設置されたプレイルームにおいて, 参加した全ての母子の「紙絵本場面」, 「音有デジタル絵本場面」, 「音無デジタル絵本場面」における相互作用を観察した。各場面は3分間であり, それぞれ少なくとも2分間のインターバルを空けて実施された。また, 場面の実施順序は母子間でカウンターバランスされた。すべての場面において, 「まり」という絵本が用いられ, どの媒体も同じ内容であった。

コード化 各場面(3分間)の母子相互作用を下記の共同注意に関する指標 (Martins, 2003; Osorio et al., 2011) を参考に改変) および注視対象に関する指標によりコード化した。(1)共同注意に関しては:(a)母親からの働きかけ; ①絵本で子どもに接触, ②絵本を動かす, ③絵本を見せる, ④絵本を差し出す, ⑤指さし, ⑥行動モデルの提示, ⑦言語指示, ⑧ページめくり, (b)乳児の反応; ①並列注視(交互注視なしの共同注意), ②応答的共同注意(交互注視ありの共同注意), ③無視, の行動をコード化した。(2)乳児および母親の**対象別注視時間**は:(a)相手の顔, (b)絵本, (c)それ以外を注視した時間が測定された。**分析方法** 母親からの働きかけの指標(1-a)に該当する行動すべての合計を求めた。乳児の反応(1-b)の各項目は, 母親の働きかけの総数に対する割合に変換された。

結果

乳児の反応の割合および母子の対象別注視時間(秒)の各場面間の差を被験者内計画(1×3)の分散分析により検定した。その結果, 応答的共同注意割合は紙絵本場面に比べ音有デジタル絵本場面で有意に低い傾向があった ($p = .082$)。また, 母親の子どもへ向けられた注視時間も, 紙絵本場面に比べ音有デジタル場面により短かった ($p < .05$)。

さらに, 母親の対象別注視時間の各項目と乳児の反応の割合の各項目の相関係数を求めたところ, 母親の絵本を注視する時間と並列注視割合に正の相関が, 応答的共同注意割合と負の相関があった。母親の子どもを注視する時間と応答的共同注意割合には負の相関があった。

考察

分散分析の結果から, 音有のデジタル絵本場面では, 母子ともに相互作用している相手への注意が低下している可能性が示唆された。また, 求めた相関係数から, 絵本へ注意を向けすぎることが応答的共同注意の頻度を低め, 逆に子どもへ注意を向けることが高める可能性が示唆された。

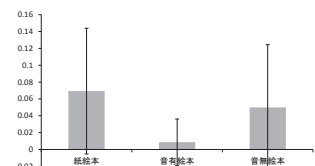


図1 各場面における応答的共同注意割合

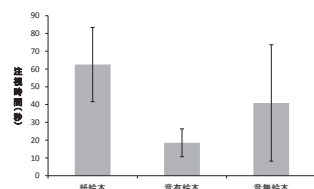


図2 各場面における母親の子どもへの注視時間

表1 母親の注視と共同注意の相関係数(紙絵本場面)

	並列注視	応答的共同注意
絵本を注視	.950*	-.996**
子どもを注視	-.923	.975*

* $p < .05$, ** $p < .01$